

# 共通開講科目(アオッサ) 白川文字学／福井大学

科目名/提供大学名	白川文字学／福井大学
科目名(英文)	The Shirakawa Letter Studies
対象学年	原則として、全学年。(但し当該年度卒業予定者は除く)
開講時期	後期:分散集中 1/11(土), 1/12(日), 2/9(日), 2/10(月) ①～④限目15コマ
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「歴史・文化理解分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	大形 徹(大阪府立大学人間社会システム科学研究科 教授)
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	ohgata@hs.osakafu-u.ac.jp
概要	福井県の生んだ文字学者、中国文学研究者である白川静氏の成果を受け継ぎ、東アジア文化圏で使用されてきた漢字の構造や歴史、また、その果たした役割などについて多方面から考察する。文字として認識されるものは甲骨文からである。これは獣骨や亀甲に刻された占いに関わる文字である。つぎに青銅器に鑄造した金文があらわれ、それが篆書となり、さらに蚕頭燕尾が発達して隷書になる。隷書を早書きしたものが隷書系の草書である。唐代にやっとなしと真書(楷書)が生まれた。楷書を崩したものが、行書や草書であるが、隷書系の草書の影響もある。漢字の成立とその後の変遷を軸にして考察する。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われず。
授業目標・目的	福井県の生んだ文字学者白川静氏の研究成果を学ぶことで、文字や漢字の奥深さを実感するとともに、小学生や中学生の漢字指導に対して効果的に活用していくための基本的な知識を身につける。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	漢字という文字に対してさまざまな角度から考察することによって、日本人がなぜ、漢字を使っているのか、どのように使っているのか。なぜ、新しい文字を作り出そうとしなかったのか。漢字を使わずに、思考することが可能なのかなどについて考えてほしい。
授業計画・授業内容	第1回:漢字がエジプト起源という説の紹介と、他の文明の文字との異同。 第2回:甲骨文の成立(占いと犠牲動物の腸・骨、獣骨・人骨・亀甲の文字) 第3回:金文の成立(青銅器の文字、鏡の銘文、象嵌の文字) 第4回:篆書の成立(大篆・小篆、木簡・竹簡・帛・銅、馬王堆簡牘、漢印→篆刻) 第5回:隷書の成立(木簡・竹簡・帛・紙・石、馬王堆帛書、曹全碑ほか) 第6回:王羲之の書(蘭亭序・尺牘ほか) 第7回:楷書の成立(唐初の三大家・顔真卿) 第8回:符と書道(道教の符・台湾の符を書くところのビデオ) 第9回:漢和辞典の構造と引き方(音・訓・部首・画数・四角号・電子辞書・今昔文字鏡) 第10回:中国の辞書の構造(釈名・説文解字・急就篇・玉篇・佩文韻府など) 第11回:『神農本草経』と比べると、『本草綱目』の目次の構造は辞書的である。 第12回:漢字の熟語の構造、『論語』にみえる熟語と現代の熟語。 第13回:文字の構造からみる本来の意味1(「死」は残骨を拝むこと) 第14回:文字の構造からみる本来の意味2(「僂」は頭部を遷すこと) 第15回:古銭の文字の構造1(開元通宝と開通元宝、和開同珎と和同開珎)
授業方法	文字としての漢字がどのように発展していったかを字体の変遷からさぐる。また漢字がどのような構造をもっていたのかを考察する。東アジア文化圏の中で漢字がどのように利用されていったのかをさぐる。日本と中国は異なる言語体系をもち、文法構造は同じではない。それにもかかわらず、日本人は独自の文字をもとうとせず、漢字を利用して、そこから、ひらがな、カタカナを生み出して巧みに利用した。また書道を芸術としてとらえる見方も中国に学んでいる。なぜ、そのようなことが可能であったのかを授業を通して考察していきたい。またなぜ韓国のハングルのように独自の文字を生み出そうとしなかったのかについても考えたい。
キーワード	漢字、文字、白川静、甲骨文、金文、篆書、隷書、真書、楷書、行書、草書
教科書	適宜、資料等を配布する。できれば、家にある漢和辞典と電子辞書を持参のこと。
参考書	『入門講座 白川静の世界1』文字 平凡社 『白川静著作集』全12巻 平凡社 白川静『字統』・『字通』 『白川静を読むときの辞典』(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所叢書) 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 藤枝晃『文字の文化史』講談社学術文庫
評価方法・評価基準	遅刻及び欠席は原則認めない。 授業時の態度及び各回のレポートや課題等による総合評価。1/3以上の欠席者は不可とする。
関連科目	なし
履修の要件	原則、期間中全て出席できる人
必要な事前・事後学習	事前・事後学習については講義時に指示する。
その他・注意事項	家にある漢和辞典と電子辞書を持参のこと。